

☆短編から曲詰までを創作し、全詰連

会長と看寿賞委員長の要職も兼務。

やなぎだ あきら

## 柳田 明

持駒 香

				皇		皇		と	
						桂			
				桂	と				
					角		王		
				飛					
				香		角			

(近代将棋 昭和56年11月号)

3 四角、3 五玉、2 六角、2 四玉、  
3 五角、同 玉、4 五と、同 香、  
3 七香、2 四玉、2 六飛、1 四玉、  
1 三と、同 玉、22 飛成、同 玉、  
2 四香、3 三五、23 香成、4 四玉、  
43 角成、同 玉、42 桂成、4 四玉、  
43 成桂、同 玉、33 成香、4 四玉、

34 成香迄 29 手詰。

☆発表時の森田銀杏氏の解説から。

『すばらしい「四香詰」が完成しました。一種類の駒だけで詰め上がる「一色詰」のうちで、金や銀はかなりあり、桂もいくつかありますが、香による作例は極端に少ないのです。

それまでの作品は成香が最初から盤上にあり、しかもそれがと金であつても何ら支障はないという苦しさがありました。本局の成香は打つてから成つたものですから、必然性の点から見ても「完璧な四香詰」の第一号といえます。しかも不動駒は57香の一枚だけ。すべての香が「香」としての機能をフルに発揮しているのも立派です。詰手順は全般に軽快な捌きに終始しますが、それでも序盤で邪魔駒の角を消去するあたりには味があり、金銀を使わない貧乏図式に仕上げたセンスも光っています。ともあれ、厳格な意味における詰棋史上初の「四香詰」の誕生を作者とと

もに慶びましょう。』

森田氏の解説で全て言い尽くされてお取り付け加える事もない。過分のお誉めを頂いたせいか、第58期塚田賞の特賞を受賞した中編の代表作である。

①昭和31年7月17日。②神奈川県横浜市鶴見区。③会社員。④近代将棋昭和48年1月号。⑤約600題。⑥昭和49年高校将棋選手権で団体戦準優勝・四段くらい?⑦「奇想曲」「看寿賞作品集」。⑧山本民雄、上田吉一。⑨詰将棋よ永遠なれ。⑩インターネット、テニス、音楽はクラシックとジャズ。

